

令和5年度 愛知教育大学入学試験問題

標準的解答例または出題の意図及び評価の観点

【前期日程】

科目名： 学校教育科学（総合問題）

I

問1（出題の意図）基礎的な語彙力を問う。

（解答）①早計 ②微小 ③概ね ④監視 ⑤萎縮

問2（出題の意図）基礎的な語彙力を問う。

（解答例）コンピュータや情報通信ネットワークなどを活用し、さまざまな情報を収集・整理・発信するなどの教育活動。

問3・問4

（出題の意図・評価の観点）

テキスト全体を参照しながら、筆者の問題提起や主張を適切に読み取り、その要旨を的確にまとめあげる理解力や論理的な思考力を問う。

問5

（出題の意図）

テキスト全体をとおして筆者の問題提起や主張を適切に読み取り、それを自らの経験知と照らし合わせながら考えることのできる論理的な思考力や表現力を問う。

（評価の観点）

- ① 文章の構成（一貫性、明確さ等）、文章表現（語彙力）、独創性。
- ② 問題文の論旨（筆者の主張）が理解できているか（理解力）。
- ③ オンライン授業には欠陥が多く含まれている点と、それを教師が自覚し乗り越えていく必要性（画一化に対抗する「自律的な教師像」等）が記述されているか（理解力）。
- ④ 問題文の論旨を踏まえて、自身の経験等が自覚的に捉えられているか（思考力、表現力）。

II

問1 ① かんぺき ③ ひょうかけねん ④ かて

問2 ② 疑心暗鬼

問3 （解答例）

完璧主義	完璧志向
対象 すべてのこと、あるいは限定されたこと	対象 限定されたこと
完璧の求め方 完璧であらねばならない	完璧の求め方 完璧でありたい
完璧の構成要素 1 高すぎる目標の設定 2 厳しすぎる自己評価と自己批判 3 失敗恐怖 4 強すぎる評価懸念	完璧の構成要素 1 理にかなった高い目標の設定 2 しっかりした自己強化 3 失敗を恐れないこと 4 他者の否定的な評価をあまり気にしないこと
もたらされる結果 一時的な適応 長期的には不適応	もたらされる結果 適応

問4 (解答例)

完璧志向では、自分の達成行動を振り返り、目標がどの程度実現できたかをしっかり評価することができる。80点をとることを目標にしている90点をとった場合は、目標を達成できたと判断し、どのような勉強のやり方がよかったか、さらに高い点数をとるためにはどのような工夫が必要かなどを考えることができる。そして、これらのことがつぎの適切な目標の設定につながる。また、目標を達成することができたので、自分をほめることができ、それによって学習意欲が持続し、主体的な学習を行うことができる。

問5 (解答例)

著者は、完璧主義を不適応、完璧志向を適応的であると捉えている。つまり、完璧主義を完璧志向へ移行すれば、子どもは適応的になると考えられる。著者は、完璧主義から完璧志向への移行を可能にするのは、完璧は理想であり、現実的には完璧に近づくことをよしとするという考えを率直に受け入れることだと述べている。そこで、教師によるこの教育・支援方法として私の考えを3つ述べる。

1つ目は、学業(テストの成績)のみが全てではないことを教育する。これは学業の価値が本人にとって極めて重要であるがためにこの領域で完璧主義となってしまうと考えられるからである。具体的には、学業成績が高くなかったにもかかわらず、現在活躍している人を紹介するなどである。

2つ目は、完璧であらねばならないという考え方を改めるような教育を行うことである。具体的には、適切な目標設定の仕方の教育、それにもなう自己評価の仕方の教育、失敗をしてもやりなおすことができることや失敗は認められるということを教えることが考えられる。

3つ目は、保護者や友人といった学業を評価する機会のある人との信頼関係を築けるように支援するこ

とが考えられる。完璧主義者は評価懸念が強すぎる傾向がある。保護者や友人との間に信頼関係が築けていけば、否定的な評価であっても受け入れることができる。具体的には、相互に助け合うことでしか成し遂げられないような課題を実施し、協力し合うことで信頼関係を築かせたい。